



ASPHALT

アスファルト防水
改質アスファルトシート防水

■建築工事標準仕様書〈JASS 8 防水工事 2014〉

一般社団法人 日本建築学会

■建築工事共通仕様書 2014年度版

公益社団法人 日本建築家協会



建設省香計207号認可

全日アスファルト防水事業協同組合

地球環境保全 環境負荷低減

私たち人間にうるおいや喜びをみたら四季の豊かな表情。

中でも雨は、さまざまな生命を育み、恵みをもたらす自然現象です。

しかし同時に雨や湿気は、都市機能の整備において種々の課題を生み出す存在でもあります。七王工業(株)では、そうした課題への対応や、さらには環境との調和に取り組んでまいりましたが、今後ますます多様化する建築様式・環境保護に対応するため長年にわたる実績・技術を生かし、時代が要求されている次世代環境を踏まえ、『低負荷型』『高品質』『高機能』を十分考慮した製品・工法に今後とも取り組んでまいります。

工場一貫製造された製品

七王工業(株)では、アスファルト原料をベースにした優れた製品の開発・製造に力を注ぎ、長年培った応用技術をもって、改質アスファルトルーフィングシート、ストレッチルーフィング類を厳しい品質管理のもと工場一貫製造しています。



製品一覧表

品名	規格・荷姿	明細・用途
ナノオアスファルトプライマー	15.5kg / 缶	アスファルト系プライマー
ナノオ水性プライマーA	17kg / 缶	無溶剤系プライマー
ベースプライマー	15.5kg / 缶	ゴムアスファルト系プライマー
ナノオベスタイト	15.5kg / 缶	アスファルト系下地調整材
カバーコート	主剤17kg/缶、硬化剤25kg/袋	コンクリート下地用エマルジョン系下地調整材
ナノオアスボン	22kg・11kg / 缶、330cc / 本	改質アスファルト系シーリング材
ハードボンド	18kg / 缶	アスファルト系接着剤 (硬質ウレタンフォーム断熱材接着用)
ラップボンド	22kg / 缶	ゴムアスファルト系接着剤 (常温工法 ラップ部接着用)
防水工用アスファルト3種	25kg / 袋	JIS K 2207 防水工用アスファルト 3種
ベストメッシュ	33m×1m	JIS A 6012 合成繊維網状ルーフィング
穴あき G	8m×1m	JIS A 6023 砂付あなあきルーフィング2500規格品
穴あき G-E	16m×1m	JIS A 6023 あなあきルーフィング1100規格品
アスファルトルーフィング1500	16m×1m	JIS A 6005 アスファルトルーフィング1500
ベストルーフィングT・1	16m×1m	JIS A 6022 ストレッチルーフィング1000規格品
ベスト砂付ルーフィング	8m×1m	JIS A 6022 砂付ストレッチルーフィング800規格品
ニューハイベスト1号	厚さ2.0mm 16m×1m	改質アスファルトルーフィングシート非露出複層防水用
ベストGA砂付ルーフィング	厚さ3.0mm 8m×1m	改質アスファルトルーフィングシート露出複層・単層防水用
ポリベストミドル	厚さ2.5mm 10m×1m	改質アスファルトルーフィングシート非露出複層防水用 (トーチ工法用)
ポリベストキャップ	厚さ4.0mm 8m×1m	改質アスファルトルーフィングシート露出複層・単層防水用 (トーチ工法用)
モイスロット	厚さ1.0mm 20m×1m	改質アスファルトルーフィングシート粘着層付シート (防湿層用)
スポットタックHC	厚さ1.5mm 12m×1m	改質アスファルトルーフィングシート部分粘着層付シート (熱工法用・トーチ工法用)
スポットタックC	厚さ1.5mm 12m×1m	改質アスファルトルーフィングシート部分粘着層付シート (常温工法用)
アスタックベース1号B	厚さ1.5mm 15m×1m	改質アスファルトルーフィングシート粘着層付シート (常温工法用)
アスタックベース1号A	厚さ1.5mm 15m×1m	改質アスファルトルーフィングシート粘着層付シート (常温工法用)
アスタックベース2号A	厚さ2.5mm 10.5m×1m	改質アスファルトルーフィングシート粘着層付シート (常温工法用・トーチ工法用)
アスタックーフS	厚さ3.2mm 8m×1m	改質アスファルトルーフィングシート露出複層・単層防水用 (常温工法用)
クランボードF4-A	605mm×910mm	硬質ウレタンフォーム断熱材 25・30・35・40・50mm
カネライトフォームスーパー E-BK ミラフォームM2RS	910mm×910mm	押出法ポリスチレンフォーム断熱材 25・30・35・40・50mm
絶縁スワシート	厚さ0.15mm 100m×1m	防水層保護 ポリエチレンフィルム
絶縁スワクロス	100m×102cm	防水層保護 フラットヤーンクロス 80g/m ²
ナノオ水性シルバー	15kg / 缶	防水層保護塗料 (シルバー)
ナノオ水性カラー	15kg / 缶	防水層保護塗料 (シルバーグレー、グレー、緑)
IRコート AE	12kg / ペール缶	遮熱・機能性熱交換塗料
改修用鉛ドレン	タテ型外径 45φ・65φ・87φ・95φ ヨコ型外径60φ・72φ・86φ・96φほか	改修用2重ドレン
ステンレスブリザー	H=200mm 300mm×300mm	ステンレス製 脱気筒
ベントユーザー	H=700mm W=150mm	立上り用脱気材
コーナーキャント	厚さ25mm 20×70×910mm	硬質ウレタンフォーム 面取材 100本/ケース

■防水層の種別

〔アスファルト防水工事〕

表1.7 アスファルト防水工法・断熱露出仕様 (AM - MT)

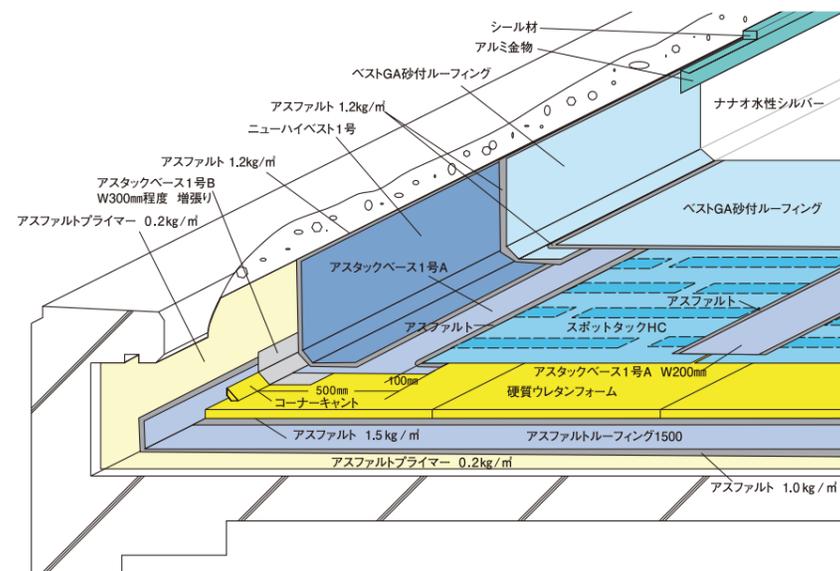
工程	平 場 (RC・PCa・ALC 下地 勾配 1/50 ~ 1/20)			
	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	断熱材 アスファルト張付け	1.5	クランボードF4-A 防水工事用アスファルト3種	1.5
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用) 張付け	—	スポットタックHC	—
4	改質アスファルトシート (露出複層防水用) アスファルト流張り	1.2	ベストGA砂付ルーフィング 防水工事用アスファルト3種	1.2

工程	立上り (RC下地)			
	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート(非露出複層防水用) アスファルト張付け	1.2	ニューハイベスト1号 防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトシート (露出複層防水用) アスファルト張付け	1.2	ベストGA砂付ルーフィング 防水工事用アスファルト3種	1.2

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部およびALCパネル短辺接合部は、アスファルトプライマー乾燥後に幅50mm程度の絶縁テープを張り付ける。
 3. 立上りの工程2は、粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用、全面接着型) で代替できるものとする。
 4. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。
 5. 立上り末端部は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。
 6. 出隅・入隅には、工程3に先立ち、幅300mm程度の粘着層改質アスファルトシート (全面接着型) による増張りを行う。
 7. 張付けに使用するアスファルトは、JIS K 2207:2006 (石油アスファルト) の防水工事用3種とする。その他のアスファルトを使用する場合は、特記による。
 8. 脱気装置を設置する。その位置、種類および個数は、特記による。
 9. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。
 10. 「エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準」(平成25年経済産業省・国土交通省告示第1号)の別表第4に定められた地域1、地域2、地域3および地域4においては、工程2に先立ち防湿層を設置する。防湿層の種類は特記がない場合は、アスファルトルーフィング1500の流張り (アスファルトの使用量は1.0kg/m²とする) とする。

施工例

種別 AM - MT 防湿層あり 仕上塗料の場合



■防水層の種別

〔アスファルト防水工事〕

表1.8 アスファルト防水工法・室内密着仕様 (AC - IF)

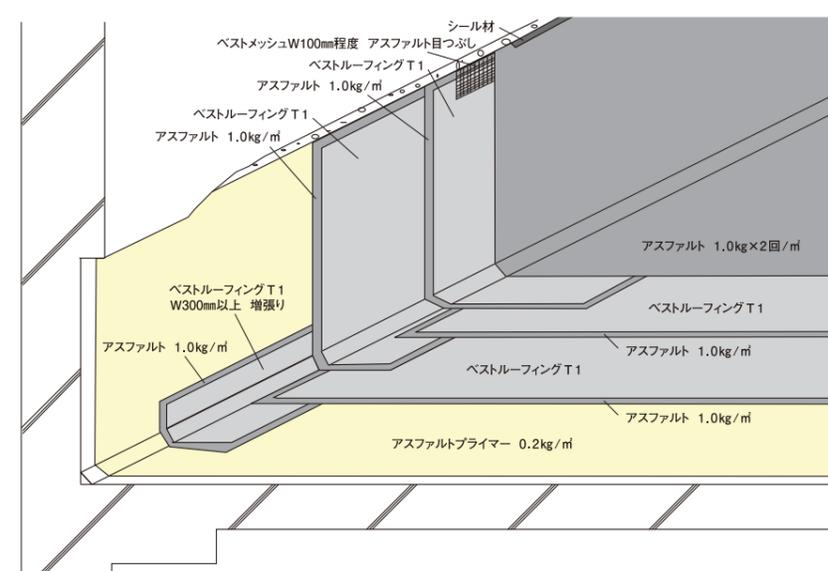
工程	平 場 (RC下地 勾配 1/100 ~ 1/50)			
	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	ストレッチルーフィング 1000 アスファルト流張り	1.0	ベストルーフィング T1 防水工事用アスファルト3種	1.0
3	ストレッチルーフィング 1000 アスファルト流張り	1.0	ベストルーフィング T1 防水工事用アスファルト3種	1.0
4	アスファルト塗り	1.0	防水工事用アスファルト3種	1.0
5	アスファルト塗り	1.0	防水工事用アスファルト3種	1.0

工程	立上り (RC下地)			
	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	アスファルトプライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	ストレッチルーフィング 1000 アスファルト張付け	1.0	ベストルーフィング T1 防水工事用アスファルト3種	1.0
3	ストレッチルーフィング 1000 アスファルト張付け	1.0	ベストルーフィング T1 防水工事用アスファルト3種	1.0
4	アスファルト塗り	1.0	防水工事用アスファルト3種	1.0
5	アスファルト塗り	1.0	防水工事用アスファルト3種	1.0

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. 立上りにトーチ工法または常温粘着工法を採用する場合は、特記による。
 3. 立上り末端部は押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材で処理する。なお、室内で防水層の立上り高さが低い場合は、押え金物に代えて網状アスファルトルーフィングで処理する。
 4. 出隅・入隅には、工程2に先立ち、幅300mm程度のストレッチルーフィングによる増張り (アスファルトの使用量は1.0kg/m²とする) を行う。ただし、立上りの保護・仕上げを乾式工法、仕上塗料またはなしとする場合は、一般平場部と立上りの出隅・入隅の増張りを省略できる。
 5. 張付けに使用するアスファルトは、JIS K 2207:2006 (石油アスファルト) の防水工事用3種とする。その他のアスファルトを使用する場合は、特記による。

施工例

種別 AC - IF モルタル仕上げの場合



アスファルト防水工事 施工法

(1) アスファルトプライマーの塗布

下地を十分に清掃した後、はけなどで施工範囲の全面にむらなく均一に塗布し、乾燥させる。

(2) アスファルトの溶融および取扱い

(i) アスファルトの溶融温度の上限は、防水材製造所の指定する温度とする。

溶融釜には温度計を設置し、温度管理を行う。溶融温度の上限を超えた場合、アスファルトは引火しやすくなるので、十分注意するとともに、あらかじめ溶融釜の近くに消火器材を用意しておく。

(ii) アスファルトの溶融釜は、できるだけ施工場所の近くに設ける。

また、溶融釜の熱が周辺に悪影響を及ぼさないように、適切な処置を施す。

(iii) 溶融したアスファルトの取扱いにあたっては、作業員の安全を確保し、建物を汚染しないように十分配慮する。

(3) ルーフィング類の張付け

(i) AC-PF、AM-PF、AM-PS、AM-MSおよびAC-IFの一般平場部と立上り部で構成する出隅・入隅は、平場のルーフィング類の張付けに先立ち、幅300mm程度のストレッチルーフィングの流張り（アスファルトの使用量は1.0kg/m²）で均等に増張りする。AM-MTの一般平場部と立上り部または立下り部で構成する出隅・入隅は、断熱材の張付け後、幅300mm程度の粘着層付改質アスファルトシートの張付けで均等に増張りする。AC-PF、AM-PF、AM-PSおよびAC-IFにおいて立上りの保護仕上げが、れんが類または現場打ちコンクリートの場合、立上り部の出隅・入隅は、平場および立上り部のルーフィング類の張付けに先立ち、幅300mm程度のストレッチルーフィングで均等に増張り（アスファルトの使用量は1.0kg/m²）する。防水層の種別は表1.3～1.8に示すとおりとする。

(ii) AC-PF、AM-PF、AC-IFにおけるコンクリート打継ぎ部は、平場のルーフィング類の張付けに先立ち、幅50mm程度の絶縁用テープを張り付けた後、幅300mm程度のストレッチルーフィングを増張りする。

(iii) AC-PFおよびAM-PFにおけるプレキャスト鉄筋コンクリート部材の継手目地部は、平場のルーフィング類の張付けに先立ち、ストレッチルーフィングを両側のプレキャスト鉄筋コンクリート部材にそれぞれ100mm程度張り掛けて、絶縁増張りをする。

(iv) AM-MTにおけるプレキャスト鉄筋コンクリート接合部およびALCパネル短辺接合部は、断熱材または防湿層の張付けに先立ち、50mm程度の絶縁テープを張り付ける。AM-MSにおけるプレキャスト鉄筋コンクリート接合部およびALCパネル短辺接合部は、平場のルーフィング類の張付けに先立ち、50mm程度の絶縁テープを張り付ける。ALCパネルの棟部は、幅50mm程度の絶縁用テープを張り付けた後、平場の部分粘着層付改質アスファルトシートを張り付け、幅300mm程度の改質アスファルトシート（非露出複層防水用）の流張り（アスファルトの使用量は1.0kg/m²）で均等に増張りする。

(v) 平場のルーフィング類の重ね幅は、長手および幅方向ともに100mm程度とする。平場のルーフィングを流張りする場合、重ね部からあふれ出たアスファルトは、はけを用いて塗りならしておく。

(vi) AM-MSの立上り際の幅500mm程度は、防水層の1層目は改質アスファルトシート（非露出複層防水用）を流張り（アスファルトの使用量は1.0kg/m²）する。

AM-MTの立上り際の幅500mm程度は、防水層の1層目は粘着層付改質アスファルトシートを張り付ける。

AM-PSの立上り際の幅500mm程度は、防水層の1層目は改質アスファルトシート（非露出複層防水用）を流張り（アスファルトの使用量は1.0kg/m²）する。

AM-MS、AM-MTおよびAM-PSの一般平場部の部分粘着層付改質アスファルトシートは、防水工事用アスファルトを用いて、改質アスファルトシートまたは粘着層付改質アスファルトシートに100mm以上張り掛ける。

(vii) AM-PS、AM-MSおよびAM-MTにおける部分粘着層付改質アスファルトシートまたは粘着層付改質アスファルトシートは、裏面のはく離紙等をはがしながら、転圧ローラーなどで転圧、密着させる。部分粘着層付改質アスファルトシートまたは粘着層付改質アスファルトシートの長辺の重ね幅は、100mm程度とする。

ただし、部分粘着層付改質アスファルトシートの短辺接合部および長辺接合部で突付けとするときは、AM-PSおよびAM-MSの場合は、幅200mm以上のストレッチルーフィング1000を防水工事用アスファルトで流張りする。AM-MTの場合は、突付け部の幅200mm以上の1層目の表面に防水工事用アスファルトを塗布した後、幅200mm以上の粘着層付改質アスファルトシートを張り付ける。

(viii) AM-MSおよびAM-MTにおける脱気装置の取付けは、防水材製造所の指定する工法による。

(ix) ルーフィング類は、原則として水勾配に逆らわないように、かつ上下層の重ね位置が同一箇所にならないように張り付ける。

(x) 立上りのルーフィング類を平場と別に張り付ける場合は、平場のルーフィング類を張り付けた後、その上に重ね幅150mm程度をとって張り重ねる。ただし、砂付ストレッチルーフィングの場合は、立上りを先に張り付けた後、平場のルーフィング類を重ね幅150mm程度とって張り重ねる。

なお、立上りをトーチ工法または常温粘着工法で施工する場合は、特記により、使用材料、施工方法は防水材製造所の指定による。

(xi) 立上りのルーフィング類の張付けは、各層のルーフィング類の天端を同じ位置にそろえて張り付けた後、防水層の末端部を押え金物で固定し、アスファルト防水工事用シール材を用いて処理する。

ただし、室内で防水層の立上りの高さが低い場合（500mm程度以下）は、押え金物を網状アスファルトルーフィングに置き換えることができる。なお、網状アスファルトルーフィングは目つぶし塗りを十分に行う。

(xii) AC-PF、AM-PF、AM-PSおよびAC-IFにおけるアスファルトの上塗りは、はけ（刷毛）などを用いて均一に塗布する。

(4) 断熱材の張付け

(i) AM-MTにおける断熱材はアスファルトを撒きながら、アスファルトが冷えないうちにすき間なく張り付ける。

(ii) AC-PF、AM-PFおよびAM-PSに断熱材を張り付ける場合は、最終工程のアスファルトの上塗りを終了した後、アスファルトにより点付けする。なお、断熱材相互はすき間なく張り付け、その上に絶縁用シートを敷き込み、部分的に固定する。

(5) 特殊部位の納まり

(i) ドレン回りの処理

ドレン回りは、平場のルーフィング類の張り付けに先立ち、AC-PF、AM-PFおよびAC-IFの場合は、ストレッチルーフィングをドレンのつばとドレンのつばから100mm程度の両方に防水工事用

アスファルトで増張りする。AM-P SおよびAM-MSの場合は改質アスファルトシート（非露出複層防水用）、AM-MTの場合は、粘着層付改質アスファルトシートをドレンのつばとドレンのつばから100mm程度の両方に増張りした後、平場のルーフィング類を張り重ねる。ただし、AM-P S、AM-MSの工程2は改質アスファルトシート（非露出複層防水用）を、AM-MTの工程3は粘着層付改質アスファルトシートを用いてドレンのつばから幅300mm程度張り付ける。一般平場部の部分粘着層付改質アスファルトシートは、防水工事用アスファルトを用いて、ドレン回りのルーフィング類に100mm以上張り掛ける。ドレンに張り付けたルーフィング類の末端部は、各層をそろえて止めた後、アスファルト防水工事用シール材を用いて処理する。また、AM-MTの断熱材は、ドレンのつばの300mm程度手前で止める。

(ii) パイプ回りの処理

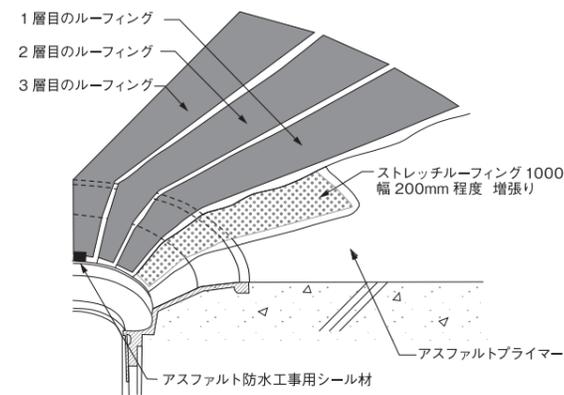
パイプ回りは、平場のルーフィング類の張付けに先立ち、パイプと平場に張り掛けるように網状アスファルトルーフィングを増張りして、目つぶし塗りを十分に行った後、パイプに1層目のストレッチルーフィングを張り付ける。次に、平場の防水層をパイプの根元まで張り付けた後、さらにパイプに2層目のストレッチルーフィングを張り付ける。パイプに張り付けた防水層の立上り末端部は、金属製のバンドなどを用いて締め付け、アスファルト防水工事用シール材を用いて処理する。

砂付ストレッチルーフィング仕上げの場合は、パイプの根元部分はアスファルト防水工事用シール材を用いて処理する。

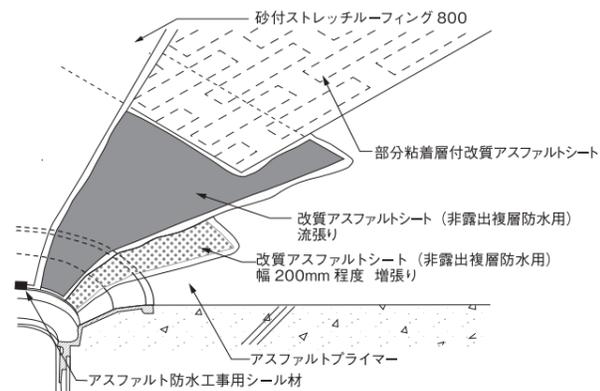
(iii) 和風便器回りの処理は、特記による。

(6) 絶縁用シートの敷込み

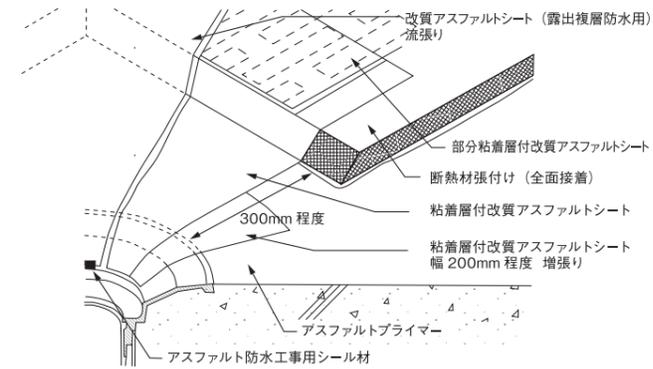
絶縁用シートは、防水層の完成後の検査を受けた後、重ね幅100mm程度をとって平場に敷き並べ、粘着テープその他を用いて固定する。



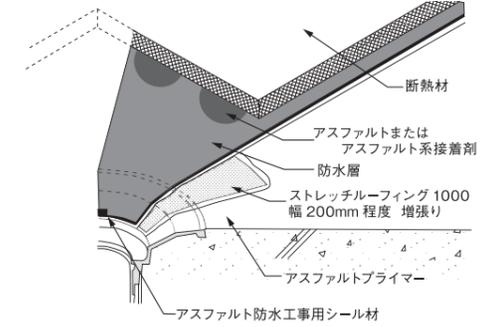
ドレン回りのルーフィング類の張付け例 (AC-PF)



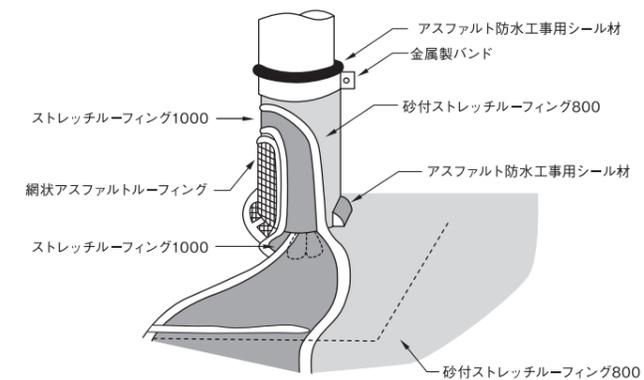
ドレン回りの改質アスファルトシートの張付け例 (AM-MS)



ドレン回りの断熱材の張付け例 (AM-MT)



ドレン回りの断熱材の張付け例 (AC-PF・AM-PF)



パイプ回りの砂付ストレッチルーフィングの張付け例

■防水層の種別

〔改質アスファルトシート防水工事 トーチ工法〕

表 1.9 改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着保護仕様 (AT-PF)

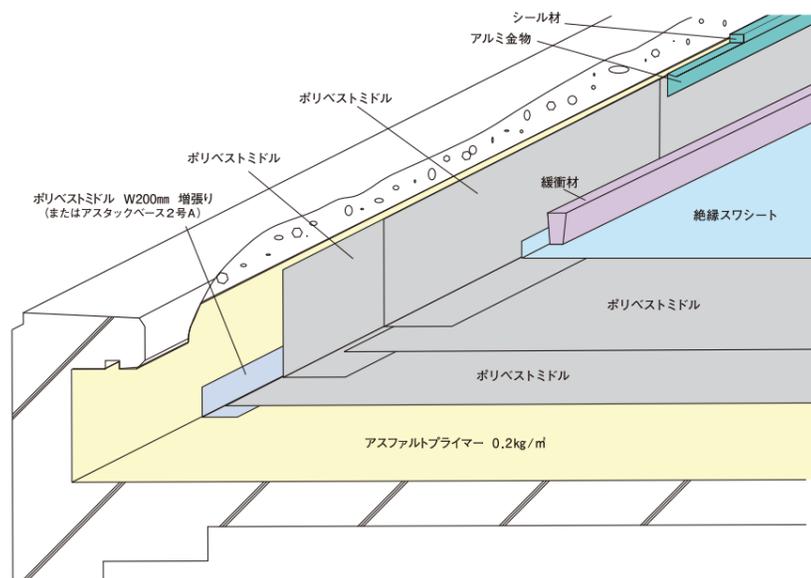
平 場 (RC・PCa下地 勾配 1/100 ~ 1/50)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用,厚さ2.5mm以上) トーチ張り	—	ポリベストミドル	—
3	改質アスファルトシート (非露出複層防水用,厚さ2.5mm以上) トーチ張り	—	ポリベストミドル	—

立上り (RC下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用,厚さ2.5mm以上) トーチ張り	—	ポリベストミドル	—
3	改質アスファルトシート (非露出複層防水用,厚さ2.5mm以上) トーチ張り	—	ポリベストミドル	—

- (注) 1. 平場の保護・仕上げとして現場打ちコンクリートまたはアスファルトコンクリートを用いる場合、その下地は、現場打ち鉄筋コンクリート下地のみ適用する。
 2. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部は工程2に先立ち、増張りシートにより増張りする。
 3. 保護・仕上げとしてモルタルを用いる場合は、室内のみとする。
 4. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 5. 立上りの保護・仕上げを仕上塗料またはなしとする場合は、平場の工程3の改質アスファルトシートは入隅で張り止めて、改質アスファルトシート（露出複層防水用）を200mm張り掛けてから、立上りを張り付ける。
 6. 断熱材を用いる場合は、その厚さは特記による。
 7. 平場の保護・仕上げを砂利とする場合は、特記による。

施工例

種別 AT-PF コンクリート仕上げの場合



■防水層の種別

〔改質アスファルトシート防水工事 トーチ工法〕

表 1.10 改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着保護仕様 (AT-PF)

地下外壁 (RC 下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用,厚さ2.5mm以上) トーチ張り	—	ポリベストミドル	—
3	改質アスファルトシート (非露出複層防水用,厚さ2.5mm以上) トーチ張り	—	ポリベストミドル	—

- (注) 1. 入隅部にはあらかじめ200mm幅程度の増張り用シートを張り付ける。
 2. 現場打ちコンクリートを保護層とする場合、鉄筋・型枠の固定方法は特記による。
 3. コンクリートブロック類の施工法は、特記による。

■防水層の種類

〔改質アスファルトシート防水工事 トーチ工法〕

表 1.11 改質アスファルトシート トーチ防水工法・密着露出仕様 (AT-MF)

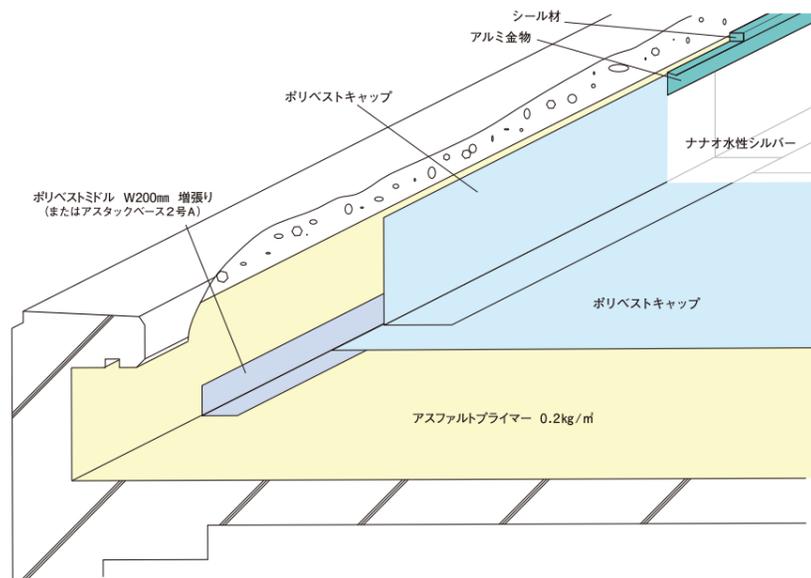
平 場 (RC・PCa・ALC) 下地 勾配 1/50 ~ 1/20				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (露出単層防水用, 厚さ4.0mm以上)	トーチ張り	ポリベストキャップ [®]	—

立上り (RC下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (露出単層防水用, 厚さ4.0mm以上)	トーチ張り	ポリベストキャップ [®]	—

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. ALCパネル下地の場合は、プライマーの使用量は0.4kg/m²とする。
 3. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部およびALCパネル接合部には、工程2に先立ち増張りをする。
 4. 脱気装置を設置する場合は、その位置、種類および個数は特記による。
 5. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。

施工例

種別 AT-MF 仕上塗料の場合



■防水層の種類

〔改質アスファルトシート防水工事 トーチ工法〕

表 1.12 改質アスファルトシート トーチ防水工法・断熱露出仕様 (AT-MT)

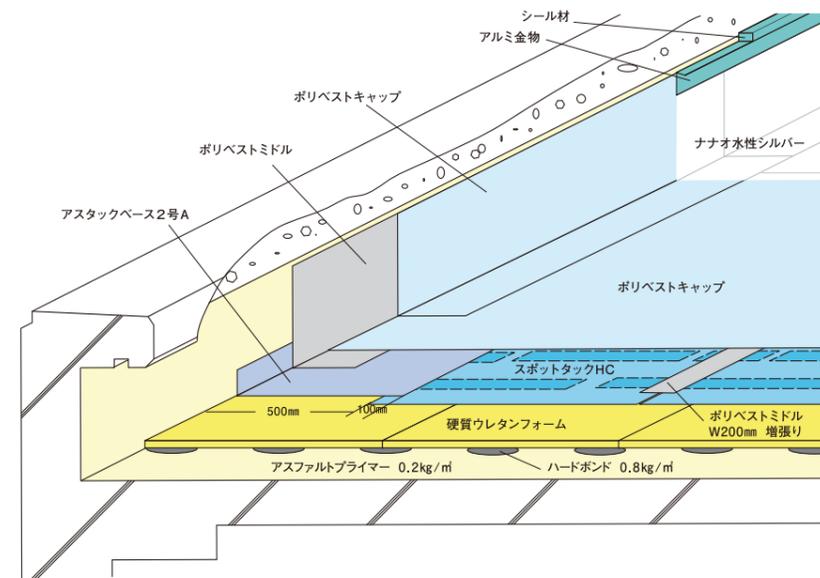
平 場 (RC・PCa・ALC) 下地 勾配 1/50 ~ 1/20				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	断熱材	張付け	クランボード F4-A・アキスボード GF ノンフロン ハードボンド	0.8
3	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上)	張付け	スポットタック HC	—
4	改質アスファルトシート (露出複層防水用, 厚さ3.0mm以上)	トーチ張り	ポリベストキャップ [®]	—

立上り (RC下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ2.5mm以上)	トーチ張り	ポリベストミドル	—
3	改質アスファルトシート (露出複層防水用, 厚さ3.0mm以上)	トーチ張り	ポリベストキャップ [®]	—

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. ALCパネル下地の場合は、プライマーの使用量は0.4kg/m²とする。
 3. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部およびALCパネル短辺接合部には、断熱材の張付けに先立ち絶縁用テープ (幅50mm程度) を張り付ける。
 4. 脱気装置を設置する場合は、その位置、種類および個数は特記による。
 5. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。
 6. 断熱材張付けは、防水材製造所の仕様による。
 7. 「エネルギーの使用の合理化に関する建築主等及び特定建築物の所有者の判断の基準」(平成25年経済産業省・国土交通省告示第1号)の別表第4に定められた地域1、地域2、地域3および地域4においては、工程2「断熱材張付け」に先立ち、防湿層を設置する。防湿層の種類は特記がない場合は、防湿シートとする。

施工例

種別 AT-MT 仕上塗料の場合



■防水層の種別

〔改質アスファルトシート防水工事 常温粘着工法〕

表 1.13 改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・密着保護仕様 (AS-PF)

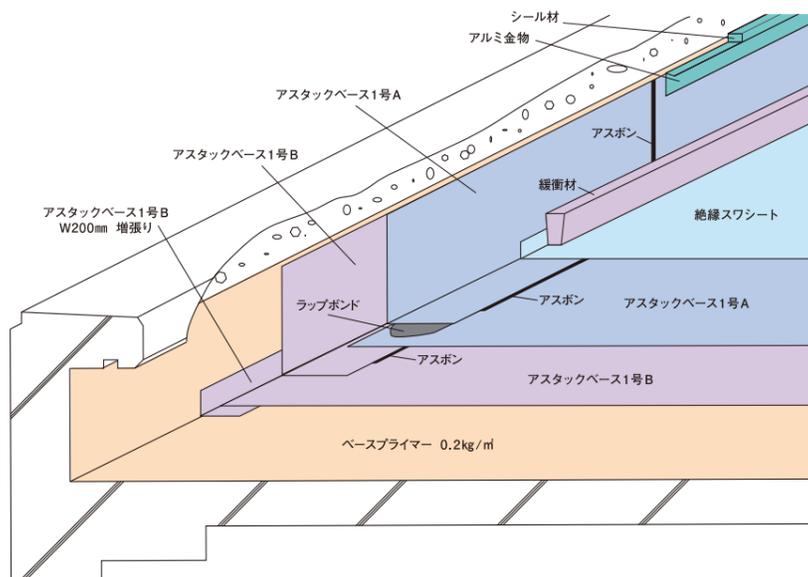
平 場 (RC・PCa下地 勾配 1/100 ~ 1/50)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	ペ-スプライマー	0.2
2	粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス1号B	—
3	粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス1号A	—

立上り (RC下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	ペ-スプライマー	0.2
2	粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス1号B	—
3	粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス1号A	—

- (注) 1. 平場の保護・仕上げとして現場打ちコンクリートまたはアスファルトコンクリートを用いる場合、その下地は、現場打ち鉄筋コンクリート下地のみ適用する。
 2. プレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部は、工程2に先立ち、増張り用シートにより増張りする。
 3. 保護・仕上げとしてモルタルを用いる場合は、室内のみとする。
 4. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材とする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 5. 立上りの保護・仕上げを仕上塗料またはなしとする場合は、平場の工程3の粘着層付改質アスファルトシートは入隅で張り止めて、粘着層付改質アスファルトシート（露出複層防水用）を200mm張り掛けてから、立上りを張り付ける。
 6. 断熱材を用いる場合は、その厚さは特記による。
 7. 保護・仕上げを砂利とする場合は、特記による。

施工例

種別 AS-PF コンクリート仕上げの場合



断熱材仕上げとする場合は、絶縁スワシートを絶縁スワクロスとする。

■防水層の種別

〔改質アスファルトシート防水工事 常温粘着工法〕

表 1.14 改質アスファルトシート 常温粘着防水工法・絶縁露出仕様 (AS-MS)

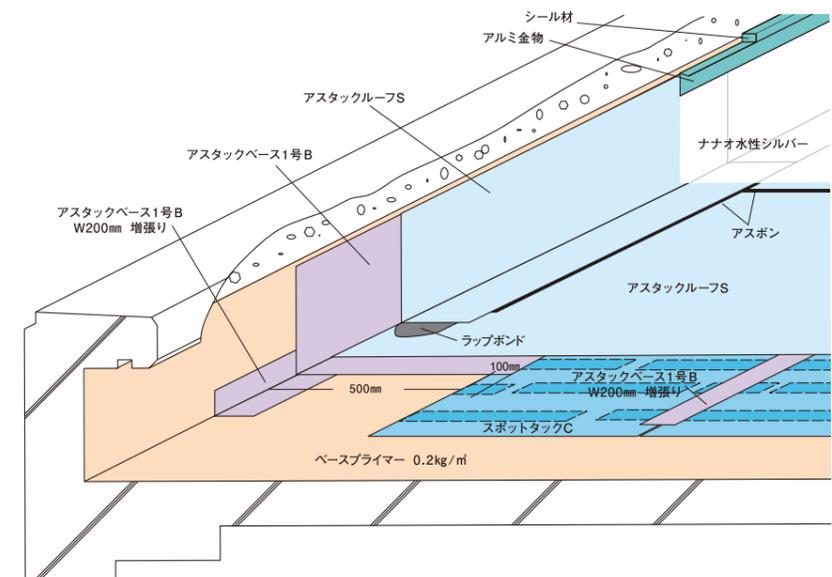
平 場 (RC・PCa下地・ALC 勾配 1/50 ~ 1/20)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	ペ-スプライマー	0.2
2	部分粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上) 張付け	—	スポットタックC	—
3	粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用, 厚さ2.0mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス	—

立上り (RC下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー塗り	0.2	ペ-スプライマー	0.2
2	粘着層付改質アスファルトシート (非露出複層防水用, 厚さ1.5mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス1号B	—
3	粘着層付改質アスファルトシート (露出複層防水用, 厚さ2.0mm以上) 張付け	—	アスタックベ-ス	—

- (注) 1. 立上りの下地をプレキャスト鉄筋コンクリート部材またはALCパネルとする場合は、スラブと一体となる構造形式のものとする。目地部の処理および増張りは、特記による。
 2. ALCパネル下地の場合のプライマーの使用量は、0.4kg/m²とする。
 3. 脱気装置を設置する場合は、その位置、種類および個数は、特記による。
 4. 仕上塗料の種類と塗布量は、特記による。

施工例

種別 AS-MS 仕上塗料の場合



(ii) 常温粘着工法の場合

- ① 粘着層付改質アスファルトシートおよび部分粘着層付改質アスファルトシートの張付けは、裏面のはく離紙（フィルム）をはがしながら、転圧ローラーなどで平均に押し広げて転圧し、張り付ける。
- ② 粘着層付改質アスファルトシートおよび部分粘着層付改質アスファルトシートの相互の重ね幅は長手・幅方向とも 100mm 以上とし、原則として水勾配に逆らわないように接合する。接合部の工法は、防水材製造所の仕様による。ただし、部分粘着層付改質アスファルトシートの短辺接合部および長辺接合部を突付けとする場合は、幅 200mm 以上の粘着層付改質アスファルトシートを突付け部に張り付ける。
- ③ 1 層目の粘着層付改質アスファルトシートまたは部分粘着層付改質アスファルトシートの接合部と 2 層目の粘着層付改質アスファルトシートの接合部が、同一箇所にならないようにする。
- ④ AS-MS および AS-MT の立上り際の幅 500mm 程度は、防水層の 1 層目に粘着層付改質アスファルトシートを張り付ける。
- ⑤ 立上りの粘着層付改質アスファルトシートの張付けは、シートの天端を同じ位置に揃えて張り付けた後、防水層の末端部を押え金物で固定し、シール材を用いて処理する。

(3) 特殊部位の納まり

(i) 出入隅角の処理

出入隅角は、平場の改質アスファルトシートの張付けに先立ち、200mm 角程度の増張り用シートで処理する。

(ii) ドレン回りの処理

ドレン回りは、平場の改質アスファルトシートの張付けに先立ち、増張り用シートをドレンのつばとつばから 100mm 程度の範囲の下地に張り掛けるように張り付ける。平場の改質アスファルトシートは、その増張り用シートの上に張り重ね、末端部は各層をそろえて止める。ドレンに張付けた改質アスファルトシート類の末端部は各層をそろえて止めた後、シール材を用いて処理する。また、AT-MT および AS-MT の断熱材は、ドレンのつばの 300mm 程度手前で止める。

(iii) パイプ回りの処理

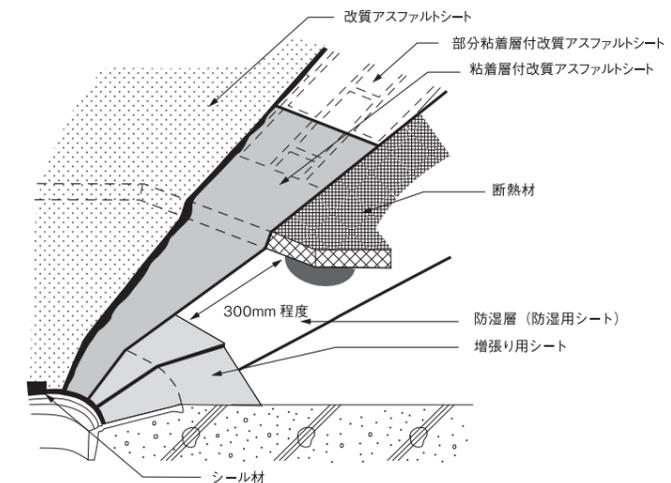
パイプ回りは、平場の改質アスファルトシートの張付けに先立ち、増張り用シートをパイプに 100mm 程度、平場に 50mm 程度張り掛ける。さらにパイプ周囲 150mm 程度の平場に張り付けた後、平場の改質アスファルトシートを張り重ねる。パイプの立上りの改質アスファルトシートは、所定の高さまで張付け、金属製のバンドで固定し、下端部とともにシール材で処理する。

(iv) 部材目地部の処理

- ① AT-PF、AT-MF および AS-PF におけるプレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部は、平場の改質アスファルトシートの張付けに先立ち、増張り用シートを両側のプレキャスト鉄筋コンクリート部材に幅 100mm 程度張り掛けて、絶縁増張りする。
- ② AT-MF における ALC パネルの棟部および短辺接合部は、平場の改質アスファルトシートの張付けに先立ち、幅 300mm 程度の増張り用シートで絶縁増張りする。
- ③ AT-MT、AS-MS および AS-MT におけるプレキャスト鉄筋コンクリート部材接合部および ALC パネル短辺接合部は、断熱材または改質アスファルトシートの張付けに先立ち、幅 50mm 程度の絶縁用テープで処理する。

(4) 断熱材の張付け

- (i) AT-MT および AS-MT における断熱材は、順次すき間なく張り付ける。
- (ii) AT-PF および AS-PF における断熱材は、断熱材用接着剤を用いて順次すき間なく張り付ける。さらに、断熱材の上に絶縁用シートを敷き込み、粘着テープなどで部分的に固定する。



AT-MT で防湿層を設ける場合のドレン回りの納まり例

公益社団法人 日本建築家協会 建築工事共通仕様書 2014

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

歩行用屋根防水層 KPI-10

平 場 (コンクリート下地 勾配 1/100 ~ 1/25)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
3	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
4	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
5	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
6	フラットキャンクロス又はホリシレンフィルム	—	絶縁スクロス又は絶縁シート	—

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

(注) 1. 立上り部は工程2の絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとして、その範囲は立上り面から平面部へ200mm程度とする。

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

歩行用屋根防水層 KPI-20

平 場 (デッキプレートのうえコンクリート下地 勾配 1/100 ~ 1/25)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
3	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
4	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
5	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
6	フラットキャンクロス又はホリシレンフィルム	—	絶縁スクロス又は絶縁シート	—

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

(注) 1. 立上り部は工程2の絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとして、その範囲は立上り面から平面部へ200mm程度とする。

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

歩行用屋根断熱防水層 KPI-10

平 場 (コンクリート下地 勾配 1/100 ~ 1/25)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
3	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
4	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
5	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
6	断熱材 (1)	—	ミラフォーム M2RS 又は カネライトフォームスーパ-E-BK	—
7	アスファルト	0.2	防水工事用アスファルト3種	0.2
8	フラットキャンクロス	—	絶縁スクロス	—

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

(注) 1. 立上り部は工程2の絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとして、その範囲は立上り面から平面部へ200mm程度とする。

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

歩行用屋根断熱防水層 KPI-20

平 場 (デッキプレートのうえコンクリート下地 勾配 1/100 ~ 1/25)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
3	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
4	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
5	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
6	断熱材 (1)	—	ミラフォーム M2RS 又は カネライトフォームスーパ-E-BK	—
7	アスファルト	0.2	防水工事用アスファルト3種	0.2
8	フラットキャンクロス	—	絶縁スクロス	—

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

(注) 1. 立上り部は工程2の絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとして、その範囲は立上り面から平面部へ200mm程度とする。

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

露出屋根防水層 KS-10

平 場 (コンクリート下地 勾配 1/50 以上)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
3	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
4	砂付ストレッチルーフing	—	ベスト砂付ルーフing	—
5	保護塗料		ナノ水性シリパ- ほか	

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	砂付ストレッチルーフing	—	ベスト砂付ルーフing	—
6	保護塗料		ナノ水性シリパ- ほか	

- (注) 1. 立上り部は工程2の絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとし、その範囲は立上り面より平面部へ150mm程度とする。
2. KS-10工法には脱気装置を設けるものとし、取付け間隔は防水材料製造所の指定による。(平面部の80m程度に1箇所設置する)

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

露出屋根防水層 KS-20

平 場 (デッキプレートのうえコンクリート・ALCパネル下地 勾配 1/50 以上)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
3	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
4	ストレッチルーフing	—	ベストルーフing T1	—
5	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
6	砂付ストレッチルーフing	—	ベスト砂付ルーフing	—
7	保護塗料		ナノ水性シリパ- ほか	

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	ストレッチルーフing	—	ベストルーフing T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
7	砂付ストレッチルーフing	—	ベスト砂付ルーフing	—
8	保護塗料		ナノ水性シリパ- ほか	

- (注) 1. ALCパネル下地においてはプライマーを0.4kg/m²使用する。
2. 立上り部は工程2の絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとして、その範囲は立上り面より平面部へ150mm程度とする。
3. KS-20工法には脱気装置を設けるものとし、取付け間隔は防水材料製造所の指定による。(平面部の80m程度に1箇所設置する)

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

露出屋根断熱防水層 KSI-10

平 場 (コンクリート下地 勾配 1/50 以上)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	アスファルトルーフィング	—	アスファルトルーフィング 1500	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	断熱材(II)	—	クランボード F4-A	—
6	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
7	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
8	砂付ストレッチルーフing	—	ベスト砂付ルーフing	—
9	保護塗料		ナノ水性シリパ- ほか	

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
5	砂付ストレッチルーフing	—	ベスト砂付ルーフing	—
6	保護塗料		ナノ水性シリパ- ほか	

- (注) 1. 平面部の工程3におけるアスファルトルーフィングは50mm程度立上げる。
2. 立上り部は断熱材(II)貼り付け後、立上り隅にキャント材を貼り付け、絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとし、その範囲は立上り面より平面部へ150mm程度とする。
3. KSI-10工法には脱気装置を設けるものとし、取付け間隔は防水材料製造所の指定による。(平面部の80m程度に1箇所設置する)

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

露出屋根断熱防水層 K S I - 2 0

平 場 (デッキプレートの上えコンクリート・ALCパネル下地 勾配 1/50 以上)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	アスファルトルーフィング	—	アスファルトルーフィング 1500	—
4	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
5	断熱材 (II)	—	クランボード F4-A	—
6	絶縁用改質アスファルトルーフィング	—	スポットタックHC	—
7	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
8	砂付改質アスファルトルーフィング	—	ベストGA砂付ルーフィング	—
9	保護塗料	—	ナオ水性シリパ-ほか	—

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.2	防水工事用アスファルト3種	1.2
3	改質アスファルトルーフィング	—	ニューハイベスト1号	—
4	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
5	砂付改質アスファルトルーフィング	—	ベストGA砂付ルーフィング	—
6	保護塗料	—	ナオ水性シリパ-ほか	—

- (注) 1. ALCパネル下地においてはプライマーを0.4kg/m²使用する。
 2. 平面部の工程3におけるアスファルトルーフィングは50mm程度立上げる。
 3. 立上り部は断熱材 (II) 貼り付け後、立上り隅にキャント材を貼り付け、絶縁用改質アスファルトルーフィングを改質アスファルトルーフィングに替え、アスファルトにて密着張りとし、その範囲は立上り面より平面部へ150mm程度とする。
 4. K S I - 2 0工法は脱気装置を設けるものとし、取付け間隔は防水材料製造所の指定による。(平面部の80m²程度に1箇所設置する)

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

室内防水層 K I D - 1 0

平 場 (コンクリート下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
3	アスファルトルーフィング	—	アスファルトルーフィング 1500	—
4	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
5	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
3	アスファルトルーフィング	—	アスファルトルーフィング 1500	—
4	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
5	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

■防水層の種別

〔アスファルト防水〕

室内防水層 K I D - 2 0

平 場 (コンクリート下地)				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
3	アスファルトルーフィング	—	アスファルトルーフィング 1500	—
4	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
5	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
7	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
8	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

立上り				
工程	材料・工法	使用量 kg/m ²	七王工業	使用量 kg/m ²
1	プライマー	0.2	アスファルトプライマー	0.2
2	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
3	アスファルトルーフィング	—	アスファルトルーフィング 1500	—
4	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
5	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
6	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5
7	ストレッチルーフィング	—	ベストルーフィング T1	—
8	アスファルト	1.5	防水工事用アスファルト3種	1.5

9. 2 アスファルト防水

9. 2. 3 工法

- a アスファルト防水工事は天候・気温等を留意し、係員の指示に従って施工する。
- b 防水層の下地
- (1) 一般屋根防水層の下地は、排水口に向かって勾配をつけ、コンクリートこて仕上げとし、表面を平滑にする。ただし、便所・浴室等の防水層の下地は、ならしモルタル塗りとする。立上りのコンクリートは、原則として打放し仕上げとし、防水層の施工に支障のないように仕上げる。
 - (2) 立上りの入隅および出隅は、45度に仕上げる。ただし断熱露出防水の場合、入隅は直角に仕上げる。断熱材は立上り際まで張りつけ、その上入隅にキャント材を使用する。
- c アスファルトプライマーは、下地が十分乾燥した後よく清掃し、番線その他の異物の突起等がないことを確認してから均一に塗布し、十分に乾燥させる。
- d アスファルトの溶融
- (1) アスファルト溶解釜の設置場所は、施工場所との連絡・防火・危険防止等を考慮し、あらかじめ係員の承諾を受けて設置する。
 - (2) アスファルトの溶融温度の上限はアスファルト製造所の指定する温度とし、同一アスファルトの溶融を3時間以上続けてはならない。また、溶融中に異様な色合いを生じたものは、使用してはならない。低煙・低臭アスファルトを使用した場合は、アスファルト製造所の規定する温度とする。
 - (3) 歩行用屋根断熱工法における断熱材等の張付け用アスファルトは、溶融温度が断熱材に悪影響を与えない温度のものを使用する。
- e アスファルトルーフィング類の張付け
- (1) コンクリート打継部、パラペット誘発目地部には、布粘着テープ張りの上、幅200mm以上のストレッチルーフィングを増し張りする。また耐震スリット部には布粘着テープ張りの上、幅200mm以上の改質アスファルトルーフィングを増し張りする。
 - (2) 流し張りは、アスファルトを均等に流しながらルーフィングを平均に押し広げて、下層に密着させる。
 - (3) ルーフィング類の重ねは、長手方向・幅方向ともに100mm以上とし、原則として流れの方向に逆らわないように張り上げる。各層とも上下層の重ねが同一箇所にならないように施工する。継手重ね目よりあふれ出たアスファルトは、そのつど塗りならす。
 - (4) 絶縁用改質アスファルトルーフィングの施工
 - イ) 絶縁用改質アスファルトルーフィングの重ねは、長手方向は100mm以上、幅方向はつきつけとし、その上に幅200mmのストレッチルーフィングを張付ける。
 - ロ) 絶縁用改質アスファルトルーフィングの張付け範囲は、立上り際までとし、増張りに先行して行う。
 - (5) 立上がりおよび立下がり部のアスファルトルーフィング類の納まりは、最上層が所定の位置にくるようにし、下層になるほど30mm程度ずつ短くして、末端部が厚くならないようにする。端部を押え金物で押える場合には、所定の位置に各層をそろえ、押え金物で固定した後シール材を充填する。

- (6) 防水層の立ち上り端部は、幅70mm程度の網状アスファルトルーフィングを防水層と下地にまたがらせて増張りする。
 - (7) ルーフドレイン・便器等との取合箇所および出入隅角等は、網状ルーフィングを使用して増張りを行う。貫通パイプをやむを得ず設ける場合には、これにつばを溶接し網状ルーフィングで増張りを行い、端部は銅線または金属製バンドで緊結する。
 - (8) 砂付ストレッチルーフィングの張付けは、重ね部分をアスファルトで入念に張り合わせ、その部分にアスファルトの刷毛塗りをを行い、共砂を散布する。
- f 断熱材の張付け
- (1) 断熱材はすき間なく張付ける。
 - (2) 断熱材に損傷が生じた場合は、取り替え等適切な処置を行う。
 - (3) 立上がり入隅部分への張付けは、原則として立上り際までとする。
 - (4) 立上り隅にキャント材を使用する。
 - (5) ルーフドレン回りは、カッターナイフ等を用い丁寧に欠き取る。
- g フラットヤークロスは、空げき・しわ等の生じないようにアスファルト点張りとし、継目は縦横70mm以上重ね合わせる。
- h 防水層の保護
- (1) アスファルト防水で押えコンクリート打設を行う場合は、検査の終了した部分から養生シート張りをを行い、養生シート張り終了後すみやかにコンクリート打設を行う。

(社) 日本建築家協会仕様材料適合品

アスファルトルーフィング	アスファルトルーフィング 1500
ストレッチルーフィング	ベストルーフィングT・1
砂付ストレッチルーフィング	ベスト砂付ルーフィング
網状アスファルトルーフィング	ベストメッシュ
改質アスファルトルーフィング	ニューハイベスト1号
絶縁用改質アスファルトルーフィング	スポットタックHC
断熱材 (I)	クランボードF4-A など
断熱材 (II)	カネライトフォームスーパーE-BK ミラフォームM2RS など



建設省香計207号認可

全日アスファルト 防水事業協同組合

本 部 〒555-0034 大阪市西淀川区福町3丁目1番50号 ☎06 (6474) 7841
東 京 支 部 〒133-0043 東京都江戸川区松本1丁目34番13号 ☎03 (3652) 8151
北海道支部 〒069-0812 北海道江別市幸町1-1-1 ☎011 (384) 0121
四 国 支 部 〒765-0031 香川県善通寺市金蔵寺町180番地 ☎0877 (62) 1615

製造元 七王工業株式会社